



# クラスだより

かせぐみ そらぐみ たいようぐみ  
円町まがね隣保園 2026.2.27

## かせぐみ

2月13日に 制作展がありました。もともと 作る事が大好きな  
かせ組さん! 普段からも 糸会の具を とっている「ナニになに〜?」と  
集まってきたり 制作の用意をしていると「きょうはなにをつくるの?」と 覗いてきたり  
興味津々です。制作展での 宝箱作りでは 保育者が “こうやって作る!” と  
提案するのでではなく 子どもたち 主体で 作れる様にしました。油性ペンを使ったり  
テコを使ったり 色々なコーナーを 行ったり来たり... 宝箱の中身も 自分の好きな  
動物や 好きな 食べ物など 色々な 廃材を 糸組み合わせ 作りました。  
途中 どうやって作るか 迷ったり 小函んだりした 子どももいましたが その都度  
「ハサミを使ってみたら どうかな〜?」「この箱くっつけてみたら?」と 言葉をしながら  
進めることが 出来ました。



## 豆まき

2月3日は 節分で オニがやってきました。  
少し前から ソワソワして「まじくえんに  
いきたくない」と言っていた 子どもが  
いたり「オニを やっつけるぞ!」と言っている  
子どもがいたり... 色々な 気持ちも  
抱いたまま 迎えた当日!! 新聞紙で  
作った豆を 両手いっぱい 持って  
準備万端です。オニに 豆を たくさん  
投げて 何度も 立ち向かっていく姿に  
たくましいなと 感じました。オニが  
部屋から 出ていき ぽっとして 涙して  
いる子どもも いましたが 無事に オニ  
(悪いものや 災難を)を 追い払う  
ことが 出来ました。

## そら組に向けて

後1ヶ月もすると 1つ大きくなり そら組  
に進級する 子どもたちです。そら組に  
向けて 身の回りのことが 出来る様に  
なったり 小さい お友だちに 対して  
優しくする 気持ちが 更に 強くなったり  
子どもたちなりに 考えながら 過  
している様です。“そら組になつたら  
〇〇が 出来る様になる!” ではなく  
子どもたち 一人ひとりの “出来た”に  
寄り添いながら 次の 目標を 作って  
いきたい と思います。残り1ヶ月...  
まだまだ かせ組での 生活を 楽し  
たい と思います。



寒さが強くても雪が降ると “ゆきやー!” と ほかほかの 気持ちで 楽しんで いた子どもたち。  
寒さに 負ける 身体を たくさん 動かして 外あそびも 楽しんで います。今年度も 残りわずか  
なりましたが、一日一日を 大切に、友だちと 過ごす 毎日が 楽しくなるように したい と思います。

## 自分

今年も やってきた この 時期に “オニくるかな...” と トキドキして いた 子どもたち。当日、たいよう  
ぐみの オニは とても 可愛く できて “うお〜!!” と 口を 開けて 近づいて きて も、かせぐみ、そらぐみの  
子どもたちは 新聞紙で 作った 豆を “きゃ〜!!” と 言いながら 笑顔で 投げ ています。その あとに  
大きな オニが!! “怖くない” という 言葉に 対して “まじくえん?” と 疑問の 表情で 平気そうに 表情を  
見せて いた 子どもたち。来た と 分かる と 表情が 変わり、保育者 さん さん 後ろへ... 逃げ かけられると  
必死の 形相で 豆を 投げ、逃げ 回り、保育者 の 後ろに 隠れて いました。おしり 落ちつく と “泣かなくて”  
“豆投げられた” “〇〇を守れた” “やっつけられた!” と それぞれ 感じる ところがあり、自信が ついて いる  
また 一歩の 成長に 繋がる ことが できました。

## そらぐみ 制作展 たいようぐみ

アイデアがあってもそれを開くのはまだ  
まだ難しいこともある子どもたち。保育者と  
一緒に ああでもない、こうでもない  
たくさん 話し合っ て 作り ました。  
チームごとに分かれて みんなで 考えると  
まとまらず 悩んでいるところに、保育者  
の 声掛けが入ると “そうか!” と “こちら  
こちら、やってみよう” と 動き出すのが 早い  
子どもたちは ばかりで、どんどん 意欲的  
に 取り掛か ります。“なんかなあ...”  
と 思っている 感じではないものが  
できる 中で “みて!! こゝろ へん できた”  
と 色々な 発見も あり、一つの テーマに  
沿って それぞれの 思いが 詰まった 楽  
しみ ながら わくわくした 気持ちで 作る  
ことが できた ことと、これから も 何事にも  
前向きに 取り組ん で ほしい と思っ  
て います。

思い浮かんでいるものは一緒だが、それをどう形にして  
いいか迷ってしまっている。保育者が少し声を掛けるとパッと  
ひらめき、どんどんアイデアが溢れ出し、みんなで声を掛け  
合い作り上げたマウス&骨子チーム。まずは、やってみては話し  
合い。作ったものを “ね、あめぶくぶくのやっりにしてるやん!”  
と みんなで どんどん イメージを 共有し ながら 作っ て いた  
水族館チーム。イメージの共有が難しい一人が考えたものを  
みんなでよく作り始めるもの。これではダメだと気付き  
改めて話し合い、ゆっくりと形になっていきました。  
考え直して話し合うと 時間を 掛けて 話し 合った  
まとまっていき 最後は “うんから つるせるかな?” という  
アイデアを 基に、協力し 合っ て 糸を くり くり けて いた  
龍&舟チーム。最後は 全員が 紙粘土で “自分”を  
作り ました。油粘土とは 違い、上手く つかう  
小函に いた 子どもたち。ボンドで ぐっ ぐっ から 大丈夫と  
保育者から 聞くと、ほっとした 表情で 安心して 作っ て しまっ  
た。乾いてから、糸会の 具で 色塗り、肌 → 服 → 口 → 目と 髪 の 毛  
という 順番で 自分を見 ながら 塗り ました。最後は みんなで  
並べると 自然と 一体感 が 生まれ 見ている 楽しい 作品に なっ ました。

みんなで作る たいよう組もそら組もチームに分かれて “一緒に作る”を 楽しみながら 作り上げた 制作展。  
友だちと一緒に 作る ことと、自分には 対外的 思いや アイデアに 気付く ことが できる と 共に 友だちの 思いに  
寄り添う、もしくは 友だちに 思いを 伝える ように 考える 難しさを感じた のが 対外的 かと思います。違うと  
感じることが あり、それに 納得が できない トラップに なる こと も あり ます。それを 乗り越えて 作品が  
出来上がった とき、みんな 笑顔で 11タッチして 喜び、気持ちを ひとつに することが 達成感  
を感じて いた 子どもたちです。